〈研究ノート〉

中国語ディベートの「言語的資源の多用―丁寧度」

鄭　　智　惠

キーワード：有標連鎖，会話交換，ポライトネス・ストラテジー，多用，実態

1. 本研究の焦点

意思疎通は常に自分の立場表明を伴うものであり，その都度人間関係を調整するポライトネス・ストラテジーがある。日本語において円滑なコミュニケーションを行う上で，常体ではなく敬体を使用したり，敬語，終助詞の「ね」「よね」，言いさし機能のある「けれども」などを使用したりすることにより丁寧度を表す（鄭 2009a, 2009b）。では，中国語の場合はどうであろうか。

Jacob L. May（2005：233）は，「『依頼―受諾』を『無標（unmarked）の連鎖』，『依頼―拒否』を『有標（marked）の連鎖』と見なし，『受諾する』よりも『拒否する』ほうがより多くの言語的資源を使う」，と述べている。本稿では，「有標連鎖である会話交換」と考えられる「相反意見のディベート（試合形式）」を調査の場面とし，中国語にみられる「言語的資源の多用―丁寧度」に焦点を絞り，その使用様態を考察する。

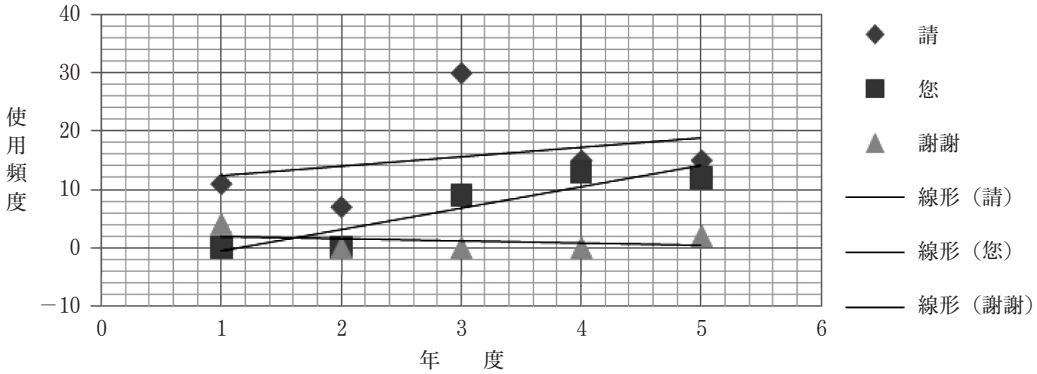
2. 調査資料

中国中央テレビ局主催の「大学生弁論大会」，2000 年準決勝戦の 2 回の試合（論題：現代社会で男性・女性どちらかがより疲れるか），1993 年決勝戦（論題：人の本性は善か悪か），1995 年決勝戦（論題：簡単だとわかっていざ実行すると難しい，難しいとわかっていざ実行するとやさしい），1995 年半決勝戦（論題：金と道徳は画一的に追求できるかできないか），の 4 試合のトランスクリプト(注) を用いて調査を行う。立論を除いて「抗弁」と「自由弁論」の部を調査資料とした。集計は，マイクロソフト社のエクセル（2007）のソフトを使った。

3. 結果と考察

中国語の丁寧度とされる「請（どうぞ）」「您（第二人称の呼称，貴方様の意に相当する）」「謝謝

（ありがとうございます）」の３つが，言語形式として発話の中で観察された。使用頻度は下図に示したように，高い順から「請」，「您」，「謝謝」となる。



「您」はディベートにおいて，「対方弁友」（先方のディベーター）の語で代用されることが多いため，出現頻度が少ない。使用頻度の一番低い「謝謝」は，ディベーターに対してではなく，「謝謝大家」（みなさん，ありがとうございました）として使用されている。中国人日本語学習者の日本語によるディベートでは「『謝辞』は相手側のディベーターに対しての発話」という結果，とは対照的な違いが考察された。

中国語によるディベートは「パフォーマンス」としての要素が強いと印象付けられる。中国語母語話者でも使用される言語の違い（目標言語か母語か）によって，その言語およびその文化にかなった丁寧度やポライトネス・ストラテジーを選択して使う傾向があると考えられよう。

4. 今後の課題

本稿は，「対人関係における言語運用」のなかで，特に中国語ディベートの丁寧度（言語形式）について焦点を絞って考察した。今後は質量ともに充実させ，言語形式による丁寧度のみではなく，非言語形式も含めて，より綿密に考察をし，論証することを課題としたい。

謝　辞

論文執筆にあたり，柳澤好昭先生，原隆幸先生の助言をいただいた。この場を借りて深く御礼申し上げたい。

〈注〉

余培侠（2007）『正方反方 ── 中央弁論：大学生即興現場舌戦交鋒実録』上下冊，人民出版社，2000 年準決勝戦（pp. 107–123），1993 年決勝戦（pp. 339–356），1995 年決勝戦（pp. 357–372），1995 年半決勝戦（pp. 614–630）

参考文献

Jacob L. May（2001）. *Pragmatics: An Introduction Second Edition.* Blackwell Publishers Ltd.（小山亘訳（2005）『批判的社会語用論入門』三元社）